

スポーツ経営学科、来春一期生卒業

広島経済大学 報

発行所
広島経済大学
広島市安佐南区祇園
五丁目37番1号
郵便番号731-0192
電話番号(082)871-1000(代)
ホームページhttp://www.hue.ac.jp/

- 2 面 興動館プロジェクト平成26年度の主な活動記録
- 3 面 インターンシップ報告/随想
- 4 面 岡本ゼミ本出版/広経大三大祭典
- 5 面 私の就職活動体験記
- 6 面 平成27年度推薦入試結果報告/学生募集要項

スポーツ経営学科開設4年目の成果

一期生喜びの内定報告

スポーツ経営学科は、スポーツビジネス界で活躍する人材の育成と、スポーツを通して地域社会の発展に貢献することをめざして平成23年4月に開設された。平成26年度には全年度が揃う「完成年次」を迎え、来春にはよいよ第一期生が社会へと羽ばたいていく。ここではスポーツ経営学科4年次生の就職内定状況と学生たちの成長について紹介する。

4年間で目を見張る成長

スポーツ経営学科では、「スポーツ王国・広島」の地域性を活かして、プロスポーツチームや地域の方々との交流に積極的に取り組んできた。その経験は、学生たちを大きく成長させた。

ポータルサイトや地域の市場調査の実施や、マンチェスターユナイテッドのサッカーチームの運営に携わるなど、一流のスポーツ選手を支えるスポーツビジネスやスポーツマネジメントに直接触れる機会にも恵まれた。また、スポーツ関連企業へのインターンシップや個別研修、アメリカでのスポーツビジネスの研修旅行などにも、学生たちは積極的に参加している。一期生をはじめとする学生たちのこのような取り組みは、企業からの評価も高い。



スポーツ経営学科教員とキャリアセンター連携による就職活動出陣式。1期生サポートの一環

平成27年度からスタートする新カリキュラムでは、国内外の最先端のスポーツビジネスの現場でインターンシップに挑戦できるほか、国内のプロスポーツチームやスポーツ先進国への視察も豊富に設けられる予定だ。

学びの魅力
現在、プロバスケットボールチームでの

学生の声
インターンシップに参加している矢上永恵さん（スポーツ経営学科3年・広島県/安古市高校出身）にスポーツ経営学科での学びの魅力について聞いた。

「2年次生から積極的にインターンシップに挑戦しました。広告代理店でスポーツマーケティングについて学び、沖縄県のプロバスケットチームで興行のサポートも経験し、現在は広島サン・スターズで広報活動に取り組んでいます。こうした実践的な学びが魅力です。将来は、子どもたちがバスケットボールを安全に楽しめて、プロの試合を気軽に観戦できる環境を広島に作りたいという、大きな目標ができました」といきいきとした表情で語った。

また、同学科へ進学した岡信裕香さん（スポーツ経営学科4年・広島県/広島皆実高校出身）は、中学生の頃からプロ野球の球団職員になりたいという夢を持ち、（株）広島東洋カープへの内定を獲得した。

「FIFAクラブワールドカップの運営に携わったことや、プロ野球球団でのインターンシップの経験が夢に近づく大きな力になったと思います」と笑顔で話

陸上競技部寮（仮称）着工（来春3月25日完成予定）



尾方監督の想いを聞く

平成26年9月より、安佐南区祇園で陸上競技部寮（仮称）の建設が始まった。平成27年3月25日の竣工を予定している。

建物は3階建てで、1階に共同スペースとしてミーティングルーム、食堂、大浴場などを完備。2・3階は2人部屋20室を設け、合計40名まで収容できる施設となる。

寮の建設計画は、平成24年5月に陸上競技部（駅伝）の監督に就任した尾方剛監督の就任当初から強い希望で実現した。「日々のトレーニングとともに、競技に必要な肉体的な管理も選手にとっては大切な要素です。陸上競技部には一人暮らしをしている学生も多いため、寮生活を通して食生活から改善し、強いフィジカルを備えた選手を育てたいと思っています。そして、



陸上競技部寮（仮称）（平成27年3月完成予定）

全国大会で入賞できるチームを学生と一緒に作りたい」と尾方監督は熱く語った。

陸上競技部は、9月に開催された「第46回全日本大学駅伝対校選手権大会」中国四国地区予選会で1位

就職活動 好調な出だし

平成23年4月のスポーツ経営学科開設から4年目を迎え、4年次生からは就職内定の報告が続々と届いている。11月18日の時点で、就職活動に取り組む50名のうち、48名は内定を得ている。スポーツ関連企業には、（株）広島東洋カープ、（株）広島東洋カーブ、（株）ムラヤマ（スポーツイベントの企画）、（株）あさひなどへ内定しているほか、フィギュアスケートインストラクターの道へ進む学生もいる。また、その他

日本スポーツマネジメント学会 第7回大会開催

日本スポーツマネジメント学会第7回大会が11月29日（土）・30日（日）の2日間約150名の参加者を迎える。本学で開催された。メインテーマとして「スポーツが地域をひらく」を掲げ、1年生から4年生まで約25名の学生スタッフが、受付や会場の運営、記録係などとして関わった。

また学会大会の前日の28日（金）の午後には、学生スタッフのセミナーが行われた。セミナー終了後は、スポーツ経営学科の学生スタッフが企画・運営したフットサル交流会を開催した。

完成年次を迎えたスポーツ経営学科においては、ひとつの節目となるものとして成功裡に終了することができた。平成24年秋にも日本生涯スポーツ学会第14回大会を学内で開催しており、学生にとって学を幅広く学ぶ良い機会となった。



特別講演をされた宮本恒靖氏（元サッカー日本代表）と受付担当の学生スタッフ

本学卒業生 福岡ソフトバンクホークス 柳田悠岐選手 大活躍

「打てる球は全部打ちに行く」という積極打法で、ソフトバンク日本一に貢献した柳田悠岐選手（経営学科 平成23年3月卒業）がプロ野球ドラフト会議にて福岡ソフトバンクホークスから2位で指名。福岡での愛称は「ギータ」。プロ入り4年目にルスタゲームに初選出され MVP を獲得。更には日本シリーズ優勝を果たし外野手部門でゴール

柳田悠岐選手 (C)SoftBank HAWKS



興動館プロジェクト 平成26年度の主な活動記録

今年度もさまざまな興動館プロジェクトが国内外での活動に精力的に取り組んでいる。ここでは、カンボジア、中国、ハワイ、インドネシアでの現地活動に臨んだ4つのプロジェクトをピックアップして紹介する。

クメール語の副読本で カンボジアによりよい教育を



カンボジアの小学校で授業をするリーダー今原さん

「カンボジア国際交流プロジェクト」では、平成20年より「戦後日本の復興」をテーマとしてクメール語の副読本の作成に取り組んできた。今年度はこの副読本の改訂に取り組んでいる。平成26年9月には、カンボジアの5つの州で小学校や教員養成学校を訪問し、副読本へのニーズ調査、手洗い・歯磨きなどの衛生教育の実践指導、日本で寄付を募った文房具の配付などを行った。なかでも副読本へのニーズ調査では、現地の教員から「日本の戦後からの復興過程（特に教育分野）についてもっと詳しく知りたい」「現在の副読本は子どもが一人で読むには内容が難しい」「学校に行く必要性を伝えてほしい」などの声が聞かれたという。カンボジアでは、家庭の手伝いをするために学校に通うことができない子ども

中国内モンゴル自治区で 植林活動に意欲



苗木を植樹する学生たち

平成26年8月25日から30日まで、中国植林プロジェクトの学生6名が中国内モンゴル自治区カンチカで植林活動を行った。現地での活動は今回で8度目となる。5年前に新たに作り、地元の村民と共同管理している「広島経済大学の森」に、モンゴル松100本、ポプラ50本を植えたほか、これまでに植えた苗木の成長率なども調査した。現地の活動に取り組んだ出原優紀さん（経済学科3年・広島県・向原高校出身）は「昨年植えたモンゴル松は約8割が順調に成長していました。一方、

若旅促進プロジェクト

「若旅in山口」「北陸カレッジ」に達成感

若旅促進プロジェクトでは、山口県の企業と観光地を巡る「若旅in山口」や、福井県の魅力を発見し旅行会社にツアー企画を提案する「北陸カレッジ」などを実施してきた。また、10月には「日韓交流イベント」として広島で韓国の学生とともに朝鮮通信使の歴史を学び、呉市下蒲刈町で開催されたお祭り「朝鮮通信使再



舞台上でダンスを披露する学生たち

ハワイと広島をつなぐ 歴史を学び、伝える



日本の文化を紹介する授業の様子

広島市とハワイ州・ホノルル市は姉妹都市であり、広島県内からハワイへ多くの人々が移民として渡った歴史がある。こうした歴史や、互いの文化を若者世代に伝え友好関係を深めていくことが、広島ハワイ文化交流プロジェクトの大きな目的である。9月には5名の学生がハワイ島での活動に取り組んだ。現地では、2泊3日のホームステイを体験したほか、ハワイで活躍する広島県出身者へのインタビューや現地の高校生たちに日本文化を紹介する授業などを行った。プロジェクトのリーダーを務める香川和明さん（経済学科3年・広島県・可部

子ども達を守るプロジェクト 広島市安全なまちづくり功労表彰受賞

11月5日、広島市「安全安心」市民の集いにおいて、「子ども達を守るプロジェクト」が「広島市安全なまちづくり功労表彰」を受賞した。大学近隣の広島市立祇園小学校で実施しているガードボランティアや下校サポートを中心とした防犯活動を、9年間におよび毎日継続的に実施していること



表彰状を手にするリーダー藤川佳紀さん

インドネシアの伝統的な織物で オリジナル商品を開発

インドネシア国際貢献プロジェクトは、「貧困地域に住む人々の生活向上への貢献」を目指し、インドネシアのガジャ・マダ大学と連携して「フェアトレード活動（*特産品を使った商品開発をし、公正な価格で買い付け、販売する活動）」に取り組んでいる。オリジナル商品として、その地域で織られる伝統的な布「テヌンリック」を使用し「テヌンリック」を使用したポーチなどを開発しており、平成26年9月にはインドネシアのジョグジャカル



特産品テヌンリックの理解を深めるためのクイズで盛り上がる子どもたち

土砂災害でも発揮された人間力

平成26年8月に発生した広島市北部の土砂災害において、本学の学生たちが災害ボランティアとして活躍した。ここでは、その活動の様子を伝える。



地域の方々と共に作業するボランティア学生たち

平成26年8月20日に安佐南区および安佐北区で発生した土砂災害の復旧支援として、本学では8月23日から学生や教職員をボランティアスタッフとして安佐南区災害ボランティアセンターへ派遣した。また、9月1日からは学内にボランティア受付窓口を設置し、より多くの学生により安全にかつ効率的にボランティアに従事してもらえるよう組織化。個人または団体クラブ、ゼミなど）に対してボランティアの募集・受付を開始。2日からは、ボランティアの手が行き届いていなかった祇園、山本、長束、大町といった大学周辺エリアや緑井にある「権現山緑井毘沙門天」の境内での土砂撤去作業に取り組んだ。



土砂災害の現場を取材する学生たち

活動期間はボランティア受付窓口の設置から20日間におよび、参加者は学生が延べ327名、教職員

興動館プロジェクト「FMハムスター」は早期からラジオでの「情報発信」に取り組んだ。副リーダーである上崎大地さん（メディアビジネス学科1年・広島県・広島可部高校出身）は、「全国メ

広島土砂災害に対する 義援金を 中国新聞社会事業団へ寄付

平成26年8月20日 広島市において発生した土砂災害により被災されました方々には心よりお見舞い申し上げます。

本学では、広島県大規模土砂災害に際し、学生・教職員・同窓生を対象に義援金を募り、9月12日（金）に中国新聞社会事業団に計348,901円を手渡した。義援金のうちには、仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバーから届けられた6万円が含まれる。（3年前に開催された、本学主催の東日本大震災チャリティコンサート出演メンバーからの寄付）



中国新聞社会事業団へ義援金を寄付

ラジオで伝えた被災現場の「今」

ラジオで伝えた被災現場の「今」



作業前のミーティングで各現場のニーズを聞き出す証人准教授

挑戦と成長の日々

インターンシップ報告

インターンシップで実社会に触れ、貴重な体験や経験を積み、新たな目標を持った学生たちの報告を紹介する。

インターンシップⅠ(国内)

研修先／株式会社
広島銀行



経済学科 3年
坂内 琢也さん
広島県 忠海高校出身

研修で就活への意識を高める

私は以前から銀行の仕事に興味があり、お金の貸し借り以外のような業務があるのか銀行の内側を自分自身の目で見てみたいと思いインターンシップに参加しました。

研修では、インターンシップ参加機の一つである銀行業務の内側を知る体験ができたこと、端末を使った通帳作りや、窓口業務の模擬体験をし、仕事への興味をより深めることができました。また、他大

この研修を通して、人とのつながりが大事、という銀行業務以外のことも学ぶことができ、1年後の就職活動に役立つ経験となりました。

また、実習のなかで印象的だったのは「仕事は人間関係が9割」という工場長の言葉でした。無駄のない作業にはお互いの声かけが不可欠であり、基本的な挨拶や笑顔が大切であるとあらためて実感しました。販売研修では、お客様の笑顔に触れて、仕事のやりがいを感じる事ができました。

また、実習のなかで印象的だったのは「仕事は人間関係が9割」という工場長の言葉でした。無駄のない作業にはお互いの声かけが不可欠であり、基本的な挨拶や笑顔が大切であるとあらためて実感しました。販売研修では、お客様の笑顔に触れて、仕事のやりがいを感じる事ができました。

インターンシップⅠ(国内)

研修先／株式会社
八天堂



ビジネス情報学科 3年
佐々木 美沙希さん
広島県 忠海高校出身

仲間との連携の大切さを実感

美味しいクリームパンで有名な八天堂では、お客様に対してどのような姿勢で仕事に取り組んでいるのか興味があり、研修先として選びました。工場研修では、



八天堂工場内の様子

インターンシップⅡ(海外)

研修先／PT. Fumakilla
Indonesia



経済学科 3年
水口 直也さん
広島県 星槎国際高校出身

多角的な視点で課題解決に挑戦

私は「フマキラーインドネシア」でのインターンシップで、開発、生産、営業、マーケティングなどさまざまな現場準備も行い、ピッチの芝刈りや重いサッカーゴールを何度も移動させる重労働も経験しました。プロジェクト意識を持って働く



人工芝のメンテナンス作業を経験

めざす業界で業務を体験

私は、将来、水泳に関わる職に就きたいという高校生の頃からの目標があります。今の自分に足りないものは何か、今後どう取り組

んでいけばいいのかを見つけたらいいと思います。広島市スポーツ協会でのインターンシップに挑戦しました。

研修内容は事務やスポーツ施設の安全管理、さらに心肺蘇生法などの救急救命を含む事故防止対策を学びました。Jリーグの試合準備

NIBES

平成26年度NIBES年次総会は6月29日から7月1日の間、モスクワにおいて開催された。10カ国の代表が参加し、新たにフランス・グテリョ・パルガス大学(ブラジル)及び延世大学(韓国)の加盟が認められ、総会は成功に終わった。



NIBES 加盟国の代表者たち

まず、サザンデンマーク大学のアスカガード教授(NIBES 執行部会、理事)が「Culture and Global Marketing—Or Why Do Indians Do Yoga」というテーマで、NIBESの役割として大学院後期課程の大学院生や若手教員の研究を支援することが重要であると述べ、次年度から本格的に大学院生や若手教員による研究発表を行い、論文出版

も考えていることを発表した。今回、注目すべき新プログラムの提案の一つに、各大学の持つ既存のサマー・スクール・プログラムを連携・交流企画するという世界では例のないNIBES独自の学生交流プログラムを試みがある。これは、3つの既存のサマー・スクール・プログラムを連携し、3つの異なる国で続けて勉強するというアイデアである。具体的な企画は来年の総会で発表することになった。

その他にも、教員交流促進プログラムとして、NIBES Faculty Teamsという教名で構成する教員チームを設置し、カリキュラムの国際化のための特定科目(例えば、「Business Cultures in Asia」)についてNIBESに依頼があれば、教員チーム(韓国、日

まざまなビジネススキルを学びました。研修は英語で行われることが多く、日常会話以上のレベルが要求されるのでとても苦勞しましたが、私も会社の一員であることを意識して取り組むよう努めました。

問題をあらゆる角度から捉え、解決を図っていく考え方を習得できたのは、何よりの成果です。これらのかんことを活かして、かねてから目標としていた農業界に新風を吹かせられる人材になりたいと思います。インターンシップ後も、日々の学修に努めると共に、他の企業のインターンシップにも積極的に参加し、幅広い知識と経験を得意にしたいと思えます。

本及びインドネシアから各1名)を構成し、依頼があった大学に派遣するというアイデアが提案された。また、教員交流をより積極的に進めるために、NIBES International Weekを企画し、毎年各加盟校から1名参加して、各自の経済・経営専門科目を加盟校で講義し(例えば、10大学の代表が参加すれば10科目の集中講義になる)、同時に開催校の教員達と研究交流を行うというアイデアも提案された。

平成27年度のNIBES総会開催地はドイツのフォルツハイム芸術工科大学に決定し、総会は閉会した。

参加した原田崇さん(経済学科3年・山口県/防府高校出身)は、「リーダーシップとは、単に人を引っ張ることではなく、仲間の長所を伸ばし、お互い支え合うなど、自分の力を集団力やリーダーシップを磨いていくことだ」と語った。

UNGL(西日本学生リーダーズ・スクール)

平成26年9月9日から11日までの3日間、「学生リーダーズ・サマースクールin愛媛」に本学学生9名が参加した。学生たちは、野外レクリエーションを通じて、変化する状況への対応力やリーダーシップを磨いた。



学生リーダーズ・サマースクール参加者たち



保護者会秋季役員会の様子

保護者会秋季役員会開催

平成26年度保護者会秋季役員会が、出野保護者会長をはじめ66名内保護者(顧問37名)の出席のもと、11月25日広島ガーデンパレスにおいて開催された。この役員会では、保護者会規約第11条により、保護者会総会の代行となるものである。

役員会では、出野会長、石田理事長(名誉会長)の挨拶に続き、前川学長(名誉会長)から教育改革の代表的なものとして、平成27年度入学生より英語授業を行うこと、毎日英語授業を行うこと、学生の質を高めたい旨の説明があった。続いて、柳川学務センター部長から、再試験、進級制度等カリキュラム改革について、また学生諸活動について、報告。沖胡教育・学習支援センター課長

随想

教育に携わる仕事に就いて30余年、この活動はどのくらい深く、正解が分からず見直してしまう。面白い教室やキャンパスにおける

「教育の喜びと奥深さ」

ビジネス情報学科教授 高岡義幸 教授

ものに留まらないので限りが無い。さらに教育の成果は、どれがどこでどのように生きてくるのか分りにくいだけに、どしどし感じる。しかし人を育てる仕事には、この世界ならではの発見や、他では味わえない無上の喜びもある。

学生と接していると己の視野の狭さに気づかされることがある。たとえば、学

生が他人には言いにくい重荷を抱えていたことを卒業後に知ったときには、それを知らずに接して来た己の行動が恥ずかしくなる。また、平素は頼りなげに見えるが、ゼミ旅行など、ゼミ旅行などの旅先で思いもかけぬ心の深みを見せてくれることがある。そんなときは思わず見直してしまう。面白い教室やキャンパスにおける

だ。教室では静かな学生が、いつもとは全く別人のような活き活きとした姿を見せるときは、人の能力の幅広さに気づかされる。教師は、いついっ業成績の良し悪しのみで人間を評価しがちなが、彼らははわれわれには無い実に多様な能力を備えている。これに気づいたときは、人生を単線的に決めるにつけなことの大切さを

から、日本語ライティングセンター開設等学生支援について説明が行われた。川村キャリアセンター部長から、10月末時点での内定状況が76.9%(昨年度比アップ)であること、上重入試・広報戦略室長からは、平成27年度推薦入試について志願者アップとの報告が行われた。また中村興動館副館長からは、プロジェクト受賞状況を始めた各プロジェクトの活動報告が行われた。最後に木村総務部長から、今年度の新規事業として実施している「朝食補助(100円朝食)」について詳細なデータを基に報告があった。続いて出野会長より次年度も継続実施したい旨の提案があり、全員異議なく承認され役員会を終了した。

役員会終了後の懇親会で、役員・顧問及び教職員

しみじみと考える。人を相手の仕事にはしんどさもなくはないが、学生と接する中で味わえる喜びを取り上げてみよう。些細なことでは、学生が自発的に板書を消してくれたとき、信頼感の芽生えを感じ、また、学生から授業以外のプライベートな問題の相談を受けたときには信頼感が深まったかなと嬉しく

なる。度々あることではないが、教室で全ての受講生がシーンとして、引き込まれるようにこちらの話に聞き入ることがある。このときは実に気持ちが良い。さらに、ゼミ合宿などで上級生やOBが下級生を指導する姿を見るのも嬉しいものだ。卒業後のつながりはさらさらと味わい深い。教え子がふ

による意見交換が活発になされた。

平成26年度前期学位記授与式挙行



学位記を授与される卒業生

去る平成26年9月25日、前期学位記授与式が、本学大会議室において厳粛に執り行われた。

晴れて卒業の日を迎えたのは経済学部生74名(経済学科28名、経営学科26名、国際地域経済学科4名)、ビジネス情報学科6名、メディアビジネス学科10名)で、教職員と保護者が見守

ら集まってお祝いをしてくれた。これは何ものにも代え難い人生の宝物となった。多くの若者に出来る人生は実に有り難く、驚きと感動に満ちている。

(教授 組織管理論、ビジネス概論、ビジネスと戦略、研究指導ほか)

前川功一学長は「いくら優良企業であっても利益を追求するだけの企業は尊敬も感謝もされません。また個人レベルでは、高学歴で成績優秀というだけでは人々から尊敬も感謝もされないとはいけません。これからは企業も個人もどれだけの世のため、人のために貢献をしたかによって、評価される社会に向かっていくと思います。私は皆さんが社会に出てからも、人から感謝されるような仕事に従事することに喜びを感じる人になってほしいのです。そうすることによって皆さん自身も大きく成長すると思えます」と激励した。

卒業生たちは新たな門出の祝福を受け、式は緊張の中にも和やかな雰囲気の中に終了した。

岡本ゼミナール

元日本兵らの証言集出版

第二次大戦中にオーストラリア・カウラの捕虜収容所...



カウラ本表紙

書籍名:『学生が開いたカウラ捕虜収容所 日本兵脱走事件』...

「全学ゼミ対抗スポーツ競技大会」を開催



完成した本の出来上がりを見る岡本教授とゼミ生たち

10月16日、「平成26年度全学ゼミ対抗スポーツ競技大会」を開催した。



ソフトボールの試合の様子

目で、それぞれの競技でゼミ生同士が協力し合い、優勝を目指し、各会場は大きな盛り上がりを見せた。

- ソフトボール (優勝) 岡本ゼミ(準優勝) 福居ゼミ (ソフトバレーボール) (石田記念体育館) トーナメント1 (優勝) 濱田ゼミ(チームK)・(準優勝) 濱田ゼミ(チームA) トーナメント2 トーナメント2 (優勝) 西村ゼミ(チームB)・(準優勝) 西村ゼミ(チームA) ●ソフトサル (石田記念体育館) トーナメント1 (優勝) 田辺ゼミ(準優勝) 新垣ゼミ トーナメント2 (優勝) 澤ゼミ(準優勝)

私のゼミナール 雑感

69

重野 裕美

「重野さん、本当は何がしたいの?」学生が、この言葉を何度も恩師から言われたことを覚えています。

「本当は何がしたいのか?」この問いは「自分にとつての幸せとは何か?」...

「本当は何がしたいの?」



ゼミ生の誕生日をサプライズで祝うゼミ生と重野助教

とされる昨今、情報を選りすぐる力も必要となってきましたが、「自分」のことでよく分かっていないと、良い選択をすることは難しいでしょう。



中島社長(左から3番目)と富岡選手(背番号14番)

本学学生がプロバスケット リーグの選手に契約登録

10月3日に行われた記者会見にて、日本プロバスケットボールリーグの準リーグとなるTKBbjチャレンジャーリーグに新規参戦する広島チーム「広島サンスタース」の発表があった。

サークル戦績 ○陸上競技部 △天皇賜盃第83回日本学生陸上競技対校選手権大会【女子100m出場】松尾紗也可▽第69回国民体育大会【男子走幅跳】藤原駿也

CIRCLE・INFO!



4年後の全国大会をめざして

女子ハンドボール部

平成26年中四国学生ハンドボール選手権秋季リーグの女子II部リーグで優勝することができました。

はまだまだ少なく、試合に活かすノウハウもありませんでしたが、一人ひとりが積極的に意見を出し合い、工夫しながら練習や部活動の運営をすることで、「自ら進んで取り組む」ことの楽しさを実感...

活動日・時間/月・水・木・金・土(平日17:30~、土10:00~) 場所/石田記念体育館3階 アリーナ

学生たちによる 写真でみる 広経大三大祭典

定期演奏会 10/25

10月25日、第47回定期演奏会Light Music Concertが開催された。



11/1・2 経大祭

11月1日・2日の両日、第47回経大祭が開催された。



応援団演舞~大学祭1日目オープニング~



ミスターコンテストin経大祭開催



ゲストライブに集まった観客

興動祭 11/23

11月23日、「第9回祇園・興動祭」が開催された。



イルミネーション点灯



興動祭実行委員長挨拶

